

ファールンダーファー

法輪大法

世界中で称賛され  
中国で  
迫害されている

# MINGHUI 明慧 INTERNATIONAL 慧

オンライン版は22カ国語対応

## 心身を鍛える

ファールンダーファー

### 法輪大法

中国古来の精神修養法で  
世界中で数千万人の人々に  
愛好されている

#### 目次

健康と安らぎ	... 6
中国の元独裁者が死亡	... 14
真実を伝えて、19年の懲役に	... 18
迫害に立ち向かう	... 24
スマホ依存症から抜け出す	... 28

ストレスから解放 | 心身を養う | 内面の安らぎを見出す  
私たちは真・善・忍を目指しています



# 法輪大法とは？

法輪大法（ファールンダーファー）は「法輪功（ファールンゴン）」とも呼ばれ、「真・善・忍」の原則に基づく古来の心身修養法です。修煉者は心身両面の向上を目指します。主著である『轉法輪』の道徳的な教えに加え、座禅を含むゆったりした5セットの動作で心身を鍛えます。



## 健康と安らぎ

- 06** 蘇る命と希望
- 08** 心身両面の向上
- 10** 世界中の地域社会を豊かに

## 良心の堅持

- 12** 明慧ネットで希望と啓発を見出す
- 14** 中国の元独裁者が死亡
- 18** 真実を伝えて、19年の懲役に

## 混迷の中の希望

- 24** 迫害に立ち向かう
- 26** 世界各地からの声援
- 28** 大法から希望を見出す



## 法輪功の 三つの理念

TRUTHFULNESS

真

ZHEN

COMPASSION

善

SHAN

FORBEARANCE

忍

REN

### 何万人もの人々が健康を 取り戻した

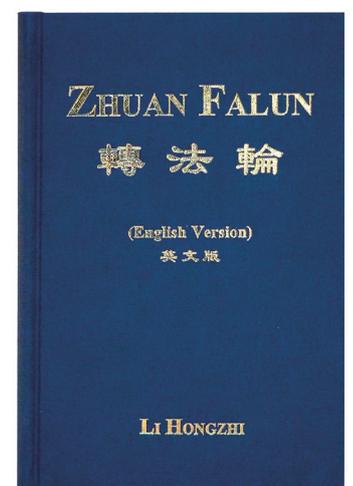
李洪志氏は1992年5月に長春市で法輪大法を伝え始めました。毎回の講習会には数百人、やがて数千人が参加するようになりました。これは、参加者が法輪功の修煉で健康を取り戻し、幸せになった実体験を友人や家族に次々と口コミで伝えたからです。

ある参加者はこう語りました。「1回の講習を聞き終えた後、私は足が地面につかず、浮いたまま家に帰ったように感じました。また、若者のようにエネルギーに満ち溢れて、嬉しさと心地よさも覚えました。帰宅後、私は知り合いの全員に法輪功を紹介し、家族の20数人も間もなく修煉を始めました」

### 『轉法輪』がベストセラーに

1992年から1994年にかけて、中国各地で56回の講習会を開催した後、李洪志氏は1995年1月に法輪大法の主要書籍である『轉法輪』を出版しました。それから2年も経たないうちに、北京のベストセラーとなりました。その後、同書は40カ国以上の言語に翻訳されました。

オーストラリア・シドニーのある学習者はこう語りました。「『轉法輪』を読んで人生の意味が分かりました。なぜ自分が辛い人生を送ってきたのか、本当の善悪とは何かが分かりました。この本を読めば、自分の執着や否定的な考えに気づくことができます。私は、それらをなくすように努力しています。私は健康になり、今はとても幸せです」



# 法輪大法の五式の功法

誰でも簡単に学べます。世界中のボランティアが無料で教えています。

1

## 佛展千手法

身体を緩やかに伸ばす動作を通して、第一式の功法は身体全体の脈を通じさせ、強いエネルギー場を作ります。



2

## 法輪樁法

4つの静止姿勢を数分ずつ続けることで、第二式の功法はエネルギーの力を増幅させ、知恵を呼び覚まします。



3

## 貫通兩極法

両手を上下に滑らせる優しい動きを通じて、第三式の功法は宇宙のエネルギーを体内に取り入れ、身体を浄化します。



4

## 法輪周天法

身体の前面、背面に沿ってゆっくりと手を動かすことで、第四式の功法は身体の正しくない状態を整え、エネルギーを循環させます。



5

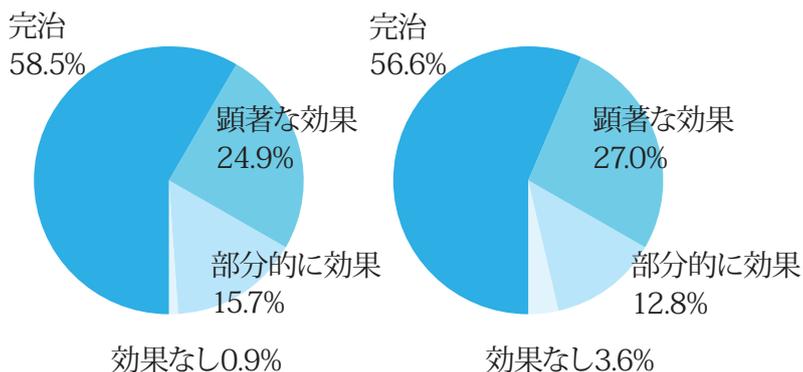
## 神通加持法

特別な手印と手の動作を行います。第五式の功法は心身を浄化させ、神通力とエネルギーを増強させます。



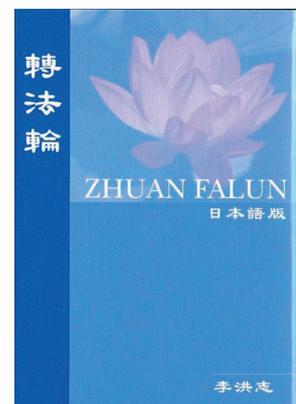
## 法輪功に関する健康調査

(北京市政府が実施、1.5万人の回答)



健康改善

ストレス軽減



『轉法輪』を読んでみませんか  
ご購入はこちら [Hakudai.jp](http://Hakudai.jp) (博大書店)



法輪大法を習い始めてからの前向きな変化について語る  
カロリナ・アベンダーノさん

## 蘇る命と希望

### カナダ人学生、健康を取戻し生きる意義を見出す

カナダのカルガリー大学に通う24歳のカロリナ・アベンダーノさんは、18カ月前に人生を変えるような経験をしたという。カルガリー大学に通って9カ月ほど経った2020年11月のある日、彼女はあるカフェで法輪功のチラシを手に入れた。パンデミックの影響で授業はオンラインでしか受けられず、クラスメイトとも交流できずにいた彼女は、家族との断絶でさらに苦しめられていた。

「ほとんどの時間は自分のアパートで過ごしていました。当時、私は摂食障害に陥っていて、両親は離婚し、母はコロンビアにいて、6年間会っていません。プレッシャーを抱える父は別の都市にいます。姉は結婚していて、封鎖のせいで会えませんでした」

伝統的なカトリックの家庭に育ったにもかかわらず、フェミニズムと唯物論の影響を受けたアベンダーノさんは、一日も早く成功を収めるため

に努力することが最も重要だと考えていた。彼女は、大学で数学と教育を学びながら、自立した生活、二つの補習授業のアルバイトの掛け持ち、ネットでのボランティア活動などを行い、多忙な日々を送っていた。

寂しさ、喪失感、虚しさを軽減するどころか、多忙なスケジュールは彼女の身体を壊してしまった。ダイエットで体重が減り、摂食障害や頭痛を抱えるようになり、1年以上も生理が来なかった。

「その間、私は魂を失ったようで、くたくたに疲れていました。多くの目標をクリアしたにもかかわらず、安心していただけませんでした。頭痛がひどくなって、家族と電話するのを怖がり、友達とも会えませんでした。私は自分自身を見失ったと分かりました」ビデオ通話で痩せている彼女を見て、家族も心配するようになった。

#### 心身両面の改善

そのチラシを手にしたアベンダーノさんはインターネットで関連動画を見つけ、法輪功、そして法輪功と太極・気功との違いを知った。そこで、彼女はオンラインクラスに申し込み、功法を習い始めることにした。

「ワクワクしました。教える人の両手の動かし方を学びました」と彼女は言った。授業の後、彼女は自分で功法の練習もしてみたという。わずか3日後、彼女は1年以上中断していた生理が戻ってきたことに驚いた。「私は嬉しくて少しショックも受けました。これは決して偶然ではないと思いました。本当に信じられませんでした!」

数日後、用事で学校から離れたビルに行ったとき、アベンダーノさんはカルガリー大学の法輪功クラブの映画ポスターを見た。彼女はクラブの責任者に電話をかけ、法輪功学習者

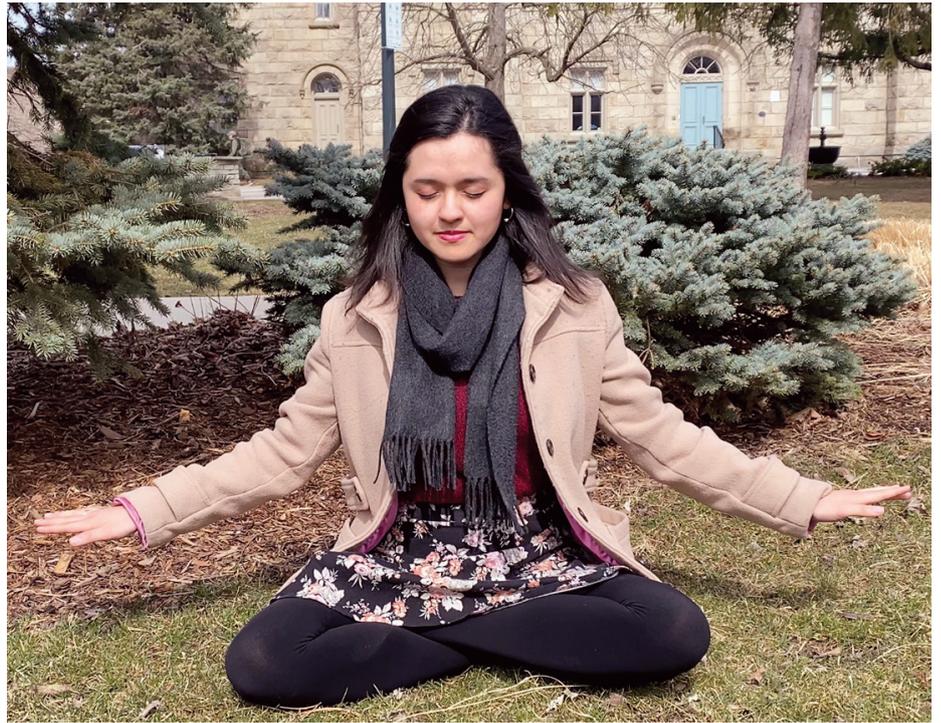
(以下、学習者)が受けている迫害を描いた映画の鑑賞に招待された。「映画を見て、(中国共産党による)迫害を知りました。本当に恐ろしいと感じました」と彼女は言った。

その後、アベンダーノさんはネットで無料の(李洪志先生の説法ビデオを見る)学習クラスに参加し、毎週末にカルガリーの中心部で行われるグループ煉功にも参加するようになった。ある学習者が彼女に英語版の『法輪功』をプレゼントし、別の学習者が彼女に電話をかけ、オンラインで行われているグループ学法に参加するよう誘った。こうして、アベンダーノさんは法輪大法の修煉を始めた。

修煉後の体の変化とともに、アベンダーノさんは自分の意識も大きく変わっていくのを感じた。修煉前、男子ばかりのビルで一人暮らしをしていたアベンダーノさんは、髪を短く切った。「とても心細かったです。彼らの多くは猟奇が好きで、私のドアをノックしにきます。女性として見られないように髪を短くしました」

修煉を始めてから、アベンダーノさんは髪を伸ばし、家族に対して持っていた怨みも消えつつあることに気づいた。彼女は両親の大変さを思い出した。エドモントンにいる父親は、家庭紛争をめぐる訴訟という人生の難局に立たされていて、遠く離れたコロンビアにいる母親は甲状腺機能低下症を患っていた。

修煉してからのアベンダーノさんは、両親は私に命を与え、育ててくれたので、尊重すべきだと気づいた。彼女は自分が直面する困難を修煉のチャンスとして捉え、「彼らの問題に悩まされることはありませんでした。私は自分の気持ちを脇に置き、ひたすら彼らを助けました」と話した。彼女は父親に多くの助けを与え、母親にも頻繁に電話をかけ、彼女のことを気遣うようになり、徐々に母親の体が良くなってきた。



かつてのアベンダーノさんは物質的な利益をより重視し、常に生産性で自分を測っていた。「目標を達成できなければ自分を咎めてしまい、自分がダメな人間だと思ってしまうこともありました。しかも、いつも虚しさを感じていました。人生の意義は単に仕事に就き、キャリアを成功させた後に世界を旅することにあるように思えました」。彼女は自分がすっかり変わったと言い、キャリアや仕事に執着するよりむしろ、内心の静けさを求めるようになったという。彼女の前向きな変化は両親を喜ばせた。

## 真の自我に戻る

「2年間のコロナの流行と1年半の修煉を経て、自分はとても幸運だと感じています」と彼女は話した。オタワでの法輪功が伝え出されて30周年を祝う活動に参加した際、アベンダーノさんはこんなに多くの学習者を見たのは初めてだと述べた。「大法に出会えて本当に光栄です。これはきっと運命だと思います。その一員になれて本当に光栄です」

「私は中国人学習者に敬服してい

上: 第5式の神通加持法を煉功しているアベンダーノさん

ます。彼らが命をかけて信仰を貫く姿に感服し、彼らの経験した苦難およびその信仰の強さに勇気づけられています。私たちの世代はあまりにも物質的で、お金や浅はかな物質に、より目線(心)が奪われているのです」

「しかし、人類の伝統を振り返ってみると、世界は必ずしもそのようではなかったことに気づかされます。人類には伝統的な価値観があり、結束力や共通性があり、精神面に対する追求もありました。それは昔から存在していて、当たり前で、人々に希望を与えていました。私は世界がそうなってほしいです」

アベンダーノさんは、今の世の中の多くの人は歪んで退廃した観念を抱いているのに対し、人間の本性は純粋で善良なものだと述べた。「法輪大法は、私たちが欠点や執着を持ち、ある意味では純潔でなく、返本帰真し、真の自分に戻る必要があることを気づかせてくれました。法輪大法は私たちに修煉と向上の機会を与えて下さる、無価で貴重なものです」

# 心身両面の向上

## スウェーデンの音楽家 大法を修煉して麻薬を絶った

スウェーデンのベステルオース市に住むジョアンさん(39)は、音楽プロデューサー兼サウンドエンジニアである。背が高く、陽気でハンサムな彼は素朴で優しく、おっとりした上品な人に見える。しかし、彼が20年近くも苦痛に満ちた依存症と闘っていたとは、とても信じがたいものだ。ジョアンさんを昔から知っている人たちだけが、彼の生まれ変わる過程を目の当たりにしてきた。

ジョアンさんは若い頃から音楽の才能を示し、ピアノを上手に弾くだけでなく、作曲もこなしていた。残念なことに、両親の離婚が彼の心に大きな影を落とし、さらに交友関係もよくなく、彼は若くして薬物に溺れ、20年近くも麻薬やタバコ、アルコールに浸って、再起不能になった。

「過去を振り返る度に、常に罪悪感を覚えます。私は依存症に苦しみ、様々な方法を試しましたが、いずれも失敗に終わりました。なぜ生きることがこんなにも苦しいのかが分からず、心はいつも空っぽでした。2011年に旧友から法輪大法を紹介されて、暗闇の中で光を見たような気がしました」と、ジョアンさんは感慨深げに言った。

「法輪大法の主著である『轉法輪』を初めて読んだとき、『真・善・忍』の3文字が心に響き、読んでいるうちに体内にエネルギーが流れているのを感じたのを覚えています。当時は十分に理解できませんでしたが、本によって私の多くの正しくない考えが覆され、それが人々に良い人に



なるように教えている本だと分かってくれました。私も良い人になりたいです。しかし『私にはそのような資格があるのか?』と思わず自問しました。当時の私には、十分な自信がありませんでした」

『轉法輪』を読んでから、ジョアンさんの心に希望が芽生えた。しかし、長年の薬物依存を断つのは簡単ではなかった。それらの良くない嗜好は、彼が地元の法輪功学習者とのコンタクトを妨げ、彼自身も学法と煉功を続けることができなかつたため、薬物中毒を克服する試みは困難な道となりとなった。こうしてさらに7年間、彼

は苦痛の中でもがいていた。2018年の秋頃、ジョアンさんは心身ともに疲弊していた。恋人が去った後、彼の健康はさらに悪化した。

ついにある日、崩壊寸前の彼は人生が終わりに近づいているように思えた。パニックに陥った彼は、心の底から何度も何度も「どうしたらいいのかわからない! どうしよう?」と叫んだ。神に出口を求めて祈っていたそのとき、彼はふと「『轉法輪』を読みたい。法輪大法を修煉したい!」という考えが浮かんだ。「その考えが出てきた途端、体にあった焦慮、苛立ち、恐怖と落ち着きのない症状が一瞬にして消えま

した」と彼は振り返った。

微笑みを浮かべながら、ジョアンさんはこう言った。「今、分かったのですが、私の知らないところで、師父はずっと私を見守って下さっていました。暗闇にいる私に光をもたらして下さいましたのは法輪大法であり、大法を修煉することが私の唯一の活路なのです。本当に心の底から李洪志先生に深く感謝しています!」

「私は再び『轉法輪』を読み始めて、すぐに読み終わりました。今まで疑問に思っていたことの多くが本によって疑問が解けて、もう一度読みたかったと思った私は、数時間も読み続けました」

**「読めば読むほど内容が意味深いと感じ、考えもよりハッキリしました」**

『轉法輪』は私の心の鍵を開け、

無限のモチベーションを与えて下さいました。私は抵抗を打ち破り、すぐに地元の学習者たちと連絡を取りました」

法輪大法の修煉を再開した2週間後、ジョアンさんは20年近く続いていた薬物依存を簡単に、奇跡的にやめたのだ! その直後、彼はタバコやお酒もやめて、長年悩まされていた花粉症もいつの間にか消えていた。

「私は身をもって法輪大法の素晴らしさを経験しました! 今の私は幸せでエネルギーに満ち溢れ、新たな人生を楽しんでいます! 法輪大法は本当に不思議です!」と彼は語った。

どこに行っても、彼は自らの経験の人々に伝え続け、「人生のどん底にいたとき、抜け出す勇気と力を与えて下さったのは法輪大法でした。大法との出会いを幸運に思っており、決して諦めません。しかし、私のような大法の

修煉を諦めない人が中国にいれば投獄され、ひいては臓器狩りまでされてしまうのは、本当に心が痛む事柄です」とも述べた。

ジョアンさんの両親は彼がこんなに早く良い方向に変わっていくのを見て感激し、彼の音楽が以前よりもっと美しくなっていることにも気づいた。彼らにとって、すべてが信じられないほどだった。

ジョアンさんは、世界中の人々に法輪大法の素晴らしさを伝えたいという。「本当に心から、人々に『轉法輪』をお勧めしたいです。この本はあなたに良い人間になる方法を教えてくれます。法輪大法は無数の奇跡を起こしていますが、私はそのうちの1人に過ぎません。

P8: ジョアンさんが法輪大法の主著である『轉法輪』を読んでいる

下: 法輪功の第二式の功法「法輪椿法」を煉功しているジョアンさん



# 世界中の地域社会を豊かに



フランス・パリ：5月13日、学習者が世界法輪大法デーを祝う様子



米国・シカゴ：2022年11月24日、学習者が第88回サンクスギビング・デイ・パレードに参加している様子

インドネシア・バタム島：2022年7月29日、学習者がSMKN7高校の1,000人以上の教師及び生徒に法輪功を紹介している様子



## イタリアの高校生： 座禅及び人権について学ぶ

南イタリアの二つの高校の生徒たちは、法輪大法を学ぶことで恩恵を受けたと述べ、大法の功法を行うことがカリキュラムの一部となっているという。学校の中国語の先生と体育の先生の協力のもと、生徒たちは体育の授業で法輪功を習う運びとなった。他のクラスの生徒たちにも学ぶチャンスがあった。生徒たちは、功法を習う過程で強いエネルギーの場を感じ、その後は落ち着いた穏やかな気持ちになったと話した。

ある教師は、中国での中国共産党による法輪大法への迫害を描いた受賞映画を流し、中共政権がいかにして中国の伝統文化を破壊してきたかを伝えた。生徒たちは、映画から多くのことを学び、現実を直視し、前向きになり、困難の中でも活躍していく勇気をもたらすと語った。また、イタリアの高校卒業時の国家試験で、信教の自由や中国の伝統文化に関する問題に答える際、学んだことを生かしたと言う生徒もいた。

下：教師と生徒と一緒に功法を学んでいる



上：イタリアのベニスで法輪功を紹介する学習者



上：ヴェネツィア広場で功法の実演を行い、迫害について人々に伝える学習者



# 明慧ネットで希望と啓発を見出す

中国の公園はかつて、穏やかな音楽に合わせてゆっくりとした功法の動作を行う老若男女で埋め尽くされていた。全国で1億人が法輪大法を実践していた。

しかし間もなく、この平和的なグループは国家の監視下に置かれるようになり、法輪大法の実践の基礎となるベストセラー本も発禁となった。かつて法輪大法の健康効果を称賛していた新聞社やテレビ局は、一転して攻撃に出た。そして、出版社に誤った情報の解明を伝えようとした学習者は逮捕され、殴打された。

混乱の中、北米の学習者グループは、何が起こっていたかの正確な情報をまとめ、世界に知らせる必要があると考えた。これが明慧（直訳すると「明晰な智慧」）の始まりである。

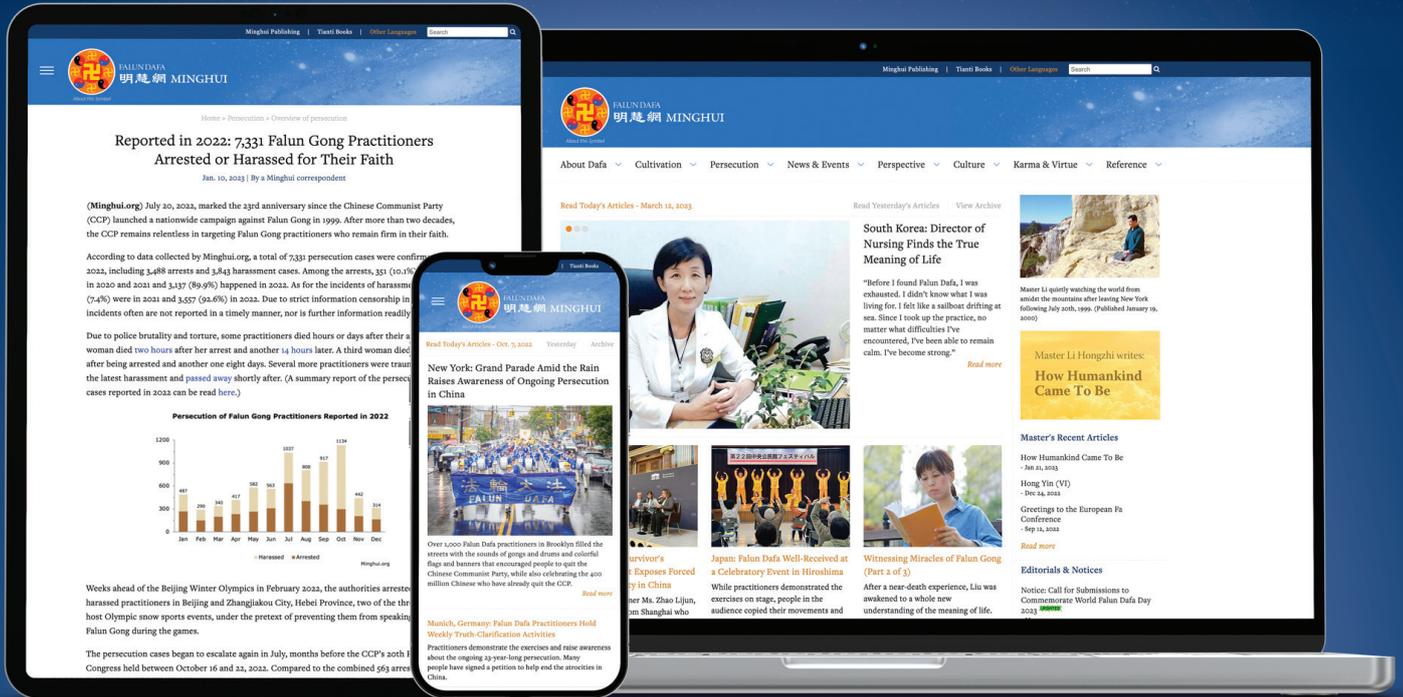
以下の特集記事やラジオについて、  
[JP.Minghui.org](http://JP.Minghui.org)をご覧ください。

- 法輪大法を実践し、健康と新たな幸せを手に入れた人々の個人的な体験談
- 他人と衝突した際、内に向けて探し、自らの性格を改める学習者の感動的なエピソード
- 中国における法輪大法への迫害の現状に関する直に得られた独占的な情報

## ご支援ください



Minghui.orgはボランティアによるネットワークであり、中国における法輪大法への迫害に関する生の情報を報道することに専念している唯一の団体です。私たちは24年間、毎日このような報道を行ってきており、そして私たちの報道は、中国と世界中の何百万人もの人々に真実の情報を提供しています。明慧の書籍やその他の出版物やご寄付については、[MHpublishing.org](http://MHpublishing.org)をご覧ください。



MINGHUI.ORGは22カ国語に対応しています

- |                  |            |
|------------------|------------|
| 中文               | 日本語        |
| English          | 한국어        |
| Bosanski         | Polski     |
| Deutsch          | Português  |
| Español          | Русский    |
| فارسی            | Slovenčina |
| français         | Српски     |
| עברית            | ไทย        |
| Hrvatski         | Türkçe     |
| Bahasa Indonesia | tiếng Việt |
| ITALIANO         | Українська |

# 中国の元独裁者が死亡

## 江沢民が残した最悪な遺産

中国共産党 (CCP) の元トップリーダーである江沢民が、腐敗、人権侵害、モラル崩壊を残し、2022年11月30日に死亡した。

江は1989年、学生主導の民主化運動を残忍に弾圧したことでトップの座に上り詰めた。1990年に北京で行われた記者会見で、外国人記者が1989年の民主化運動で逮捕された女子大生について質問した。この女子大生は労働改革（労改）農場に送られ、そこで数人の警官に集団レイプされたのだ。この事件についての見解を問われた江は、「彼女は暴力団員だから自業自得だ!」と答えた。

江は「黙って財を成す」をスローガンに掲げ、党内全体に腐敗文化を醸成した。息子の江綿恒は学歴がないにもかかわらず、中国科学院の副院長に抜擢された。また、江は息子が25億元の政府契約を獲得し、巨大な電気通信企業を建設するのを手助けした。

江の遺産の中で最も恐ろしい部分が始まったのは、1999年7月のことだった。法輪功は中国全土で盛んになり、数千万人がその緩やかな動作と道徳的な教えを受け入れていた。江は、法輪功の人気の高まりを自らへの脅威と考え、法輪功の「真・善・忍」の原則を共産主義政権のイデオロギーと相容れないものとみなした。その結果、人権の大惨事が今日まで続いてきた。

1999年7月20日、江は法輪功に対する全国的な迫害を開始した。彼の指示により、数十万人の法輪功学習

者が逮捕され、拘留所、強制労働収容所、刑務所などに連行され、信仰を捨てさせるための拷問を受けた。数え切れないほどの学習者は移植手術のために臓器を摘出され、死亡した。確認された死者数は4,000人以上だが、中国からの情報入手が困難なため、実際の数はずっと多いと思われる。

迫害の初期、江は法輪功の撲滅を目指し、「名誉を汚し、経済的に破綻させ、肉体を消滅させる」という「三大指令」を制定した。法輪功に対する江の指令を実現するために開発された戦術はその後、中国社会の主流に浸透し、全国民に広がる欺瞞、抑圧、虐待という継続的な遺産を生み出した。

### 国土を覆い尽くす監視網

迫害が始まった最初の数年間、中共は法輪功を撲滅するキャンペーン

に中国のGDPの約4分の1を費やした。2012年までに、超法規的な政治法務委員会 (PLAC) に与えられた「安定維持」(中共が脅威とみなすあらゆるグループを抑圧する際に使われる婉曲表現) のための予算は国防予算を上回った。

迫害を開始した後、江沢民は政府に、学習者を厳重に監視し、法輪功関連の情報がインターネットに投稿されるのを阻止するよう命じた。早くも2000年に、北京市警察は企業と共同でピンホール大のビデオカメラを開発し、それを学習者の家の入り口の横に設置し、出入りする人を監視していた。

また、江は息子の江綿恒に「金盾プロジェクト」を率いさせ、既存のインターネットファイアウォールにウェブサイトの遮断、通信の監視、ウイルスやスパイウェアの送信、顔認識、電話の盗聴などの機能を追加した。



現在、中国には5億台を超える監視カメラが設置されている。中共による市民への監視は、パンデミックの時代になってさらに強化された。「健康コード」アプリが、住民が出入りできる場所を決めている。より広範な監視システムに接続されているこれらのアプリは、電子足枷となった。

## 強制収容所

パンデミックの間、多くの家族が強制的に分離され、異なる「方艙」（隔離用の野戦病院）に連れて行かれた。これらの施設は食事、衛生、医療体制の劣悪さで悪名高く、隔離された人々はしばしばそこを強制収容所に例えた。

これらの施設は、中共がウイグル族を強制収容している新疆ウイグル自治区にある既存の再教育キャンプ（婉曲的に「職業訓練学校」と呼ばれている）と類似している。唯一の違いは、「方艙」では洗脳や身体的虐待がなかったことである。

多くの人が気づいていないのは、新疆の再教育キャンプが、学習者を拘束し拷問するために使用された労働キャンプや洗脳班をモデルにしているということである。法輪功への迫害を始めた後、江は数多くの労働収容所や洗脳班を設立し、その多くは外部に「法制教育センター」として知られていた。それらは実質的に闇監獄であり、そこでは学習者が拷問を受けて信仰を放棄させられ、受刑者や協力する者が拷問を実施することで報酬を得ていた。

## 拘禁中の性的虐待

新疆ウイグル自治区の強制収容所から脱出した数人の女性は、そこでレイプされたことを明らかにした。悲しいことに、中国の収容施設ではこのような拷問が長年行われており、学習者

が主な標的となっている。

ジャーナリストの杜斌さんは2014年に『膻内失神』という本を出版し、多くの学習者が収監されていた馬三家強制労働収容所で起きた残虐行為を明らかにした。「女性に灌食するために子宮拡張器を長期間使用したり、女性を自分の排泄物の中に寝かせたり、数本の歯ブラシを縛って女性の膻にねじ込んだり、女性の膻に唐辛子粉を入れたり、女性の胸と膻に電気警棒でショックを与えたり、女性を男性の囚房に入れるなどの『馬三家女子労働収容所』で起こった残虐行為を、人間として容認する理由も言い訳もない」と、杜さんは書いた。

学習者の尹麗萍さんは、自分と他の17人の女性学習者が、馬三家労働収容所の男性監房に入れられたと証言した。あまりの恐ろしさに、精神障害を発症した女性もいた。

## 強制的な薬物投与

中共当局はしばしば、健康状態が良好な反体制派を精神病院で苦しめた。犠牲者の中には、ある中共指導者の肖像画にインクをかけた董瑤瓊さんと、中共のプロパガンダに疑問を呈した2人の教師、宋庚一さんと李田田さんも含まれている。

実際、多くの学習者は単に信仰を堅持しているだけで、長い間中共に「精神病患者」とレッテルを貼られてきた。彼らは神経を傷つける薬を注射されたり、食べ物や水にそのような薬を混入させられたりした。その結果、ある者は障害を負い、ある者は命を落とした。

## 正義を求める場所がない

中共の中傷的なプロパガンダは、多くの中国人に学習者への虐待を無視させ、迫害の共犯者にさえなるように仕向けた。法執行機関、司法機関、

他の政府機関が国家主導の弾圧のためのゴム印と化したため、一般市民の正義を支える法と秩序はもはや存在しない。

強制移住させられた世帯、報酬を得ていない出稼ぎ労働者、詐欺被害者など、数多くの陳情者が、省または中央の陳情事務所に向かう途中でしばしば妨害され逮捕されたため、自らが受けた不当な扱いを訴える場所がないことに気づいた。これは驚くに当たらないかもしれない。なぜなら、警察は陳情のために北京に向かう学習者を途中で捕まえることにおいて、非常に経験豊富になっているからだ。

今日、人権派弁護士や反体制派は、「国家転覆を煽動した」、または「喧嘩を売ってトラブルを誘発した」として投獄されることが多い。それよりもずっと前に、中国の裁判所は何十万人もの無実の学習者に、法的根拠のない判決を下している。今日、警察はしばしば歩行者や運転手を意のままに呼び止めてバッグを調べたり、携帯電話



上：中国・山東省のある横断幕には「国を挙げて江沢民を訴えるべきだ」と書かれ、何者かが横に黒文字で「同感です」と書いた

話をチェックしたり、平気で個人宅に侵入し人を殴ったり逮捕したりしている。同じことが過去23年間、学習者に起こっていた。

## 憎悪を煽る

2001年1月23日、中共は天安門広場で、学習者に扮した俳優たちによる焼身自殺プロパガンダ演出を行った。その結果、複数の角度から都合よく撮影されたビデオは国営メディアで継続的に放送され、世論を法輪功に敵対するものに変えた。

その1週間後、教育部長は中国国内のすべての学校に対し、法輪功を非難するキャンペーンを実施するよう指示した。その結果、多くの若者が毒され、法輪功を憎むように導かれた。100都市の約800万人の若者が、法輪功を中傷するために署名した。同月、1,500以上のコミュニティの若者がキャンペーンを行い、1,200万人の住民から法輪功を糾弾する署名を集めた。

法輪功への誹謗中傷は、大学や大学院の入試を含む教科書や試験問題にも書き込まれている。大学も入試要項を改正し、学習者の受験や入学を禁じた。

## 生きた体からの臓器収奪

2006年、生きた学習者から臓器を収奪する犯罪が初めて明るみに出たとき、多くの人は信じなかった。元商務部長の薄熙来と、中国人民解放軍総站部の元衛生部長の白樹忠は後に、強制的な臓器摘出が江沢民の指示だったと認めた。

江は1999年7月に法輪功への迫害を開始した際、「名誉を汚し、経済的に破綻させ、肉体を消滅させる」との命令を下し、「(学習者を) 殴り殺しても自殺とみなす」とし、「身元は確認せずに直接火葬せよ」と当局に指示した。

その後の数年間、中国軍、武装警察および病院は、需要に応じて殺すという恐ろしい臓器供給システムを構築し、犠牲者はもはや学習者だけに留まらなくなった。

P14: 学習者は、1999年7月に法輪功への迫害を開始した江沢民元中国共産党指導者に関する横断幕を掲げている。(大紀元)

## 20万件以上の訴追が 江沢民の起訴を求めた

2015年以降、20万人以上の学習者が中国の最高裁判所に江沢民に対する刑事告訴を行った。原告団は、迫害の被害者のために正義を求めただけでなく、中国の司法・警察システムの関係者らが迫害に参加することを思いとどまらせたいとも考えている。

また、アジアでは100万人以上の人々が江の訴追を求める請願書に署名した。欧米の首脳も支持を表明している。元米下院議員のダナ・ローラバッカー氏は「彼らに責任を取らせなければならない」と述べ、中国での原告への報復的な嫌がらせや逮捕を非難した。

下: 中国市民は、江沢民を裁くための請願書に署名し、指紋を押している。共産党指導者に対し批判の声をあげることは、個人には大きな危険をもたらす。江沢民を刑事告訴した報復として、多くの学習者は逮捕され、拷問を受けた



# 年表

## モラルが崩壊していく中で の希望

江沢民による法輪功への迫害は、中国の社会的・道徳的衰退を早めた。迫害への参加を促すために、中共当局は、学習者を逮捕した警察や学習者を通報した情報提供者に現金報酬を提供した。江はまた、役人のボーナスや昇進をこの迫害キャンペーンに結びつけた。拘留所、労働収容所、刑務所では、学習者は「真・善・忍」という信念のために拷問され、加害者は称賛され、報酬を得ていた。

警察が法を犯すことで奨励され、教師が無実の人を中傷するように仕向けられ、医師が利益のために殺人するように駆り立てられると、社会は誰も安全にいられない方向へ向かってしまう。江沢民が始めた法輪功への迫害は、中国と世界の歴史における暗黒の一章である。より多くの中国人が中共の関連組織から脱退し、他の国々がその影響力を拒むようになって、私たちは初めて新たな光を見出すことができる。

- 1992年 法輪功が中国の長春市から伝え出された
- 1992年-1994年 中国全土で総計6万人以上が法輪功講習会に参加
- 1996年 - 中国共産党が法輪功の書籍を発売禁止
- 1996年-1998年 - 散発的な嫌がらせや弾圧が始まり、反法輪功プロパガンダが広がる
- 1998年5月 政府スポーツ局が調査実施、調査対象の98%が法輪功によって健康が改善
- 1998年7月 中国公安部は法輪功を「カルト」とし、学習者への嫌がらせと監視を強める
- 1998年10月 政府スポーツ局の主任調査員が、法輪功の健康効果と地域社会への好影響を再確認
- 1999年まで 中国共産党は、8,000万~1億の中国人が法輪功を修煉していると推定
- 1999年3月 法輪大法 (FalunDafa.org) のウェブサイト開設
- 1999年4月 1万人の法輪功学習者が、天津で逮捕された学習者の釈放求め、北京の中南海付近で陳情
- 1999年6月10日 江沢民が法輪功弾圧のための「610弁公室」を設置、羅幹が実行
- 1999年6月25日 明慧ネット (Minghui.org) のウェブサイト開設
- 1999年7月 中国全土での弾圧が始まり、独裁者・江沢民が法輪功を「地上から抹殺する」と公言
- 2001年1月 法輪功に対する世論を扇動するため、中国共産党は天安門広場で焼身自殺のプロパガンダを演出
- 2006年 強制臓器摘出という中国共産党の残虐行為が暴かれる
- 2011年 法輪功書籍は合法とされたが、実際には出版されず
- 2013年 労働収容所は閉鎖されたが、投獄者数は増加
- 2015年 独裁者・江沢民に対する刑事告訴が25万件を突破
- 2020年 『明慧二十周年報告書：中国で起きている20年間にもおよぶ法輪功への迫害』出版。迫害に関する包括的な記録となる
- 2022年 明慧が報告した迫害の加害者リストが114,300人を超える。法輪功学習者が37カ国の政府にリストを提出、人権侵害者への制裁を求める
- そして今日
  - 80カ国以上へ法輪功が広まる
  - 40カ国語の法輪功書籍が発行される
  - 4.1億の中国人が共産党と関連組織から脱退する
  - 迫害は今なお続いている

# 真実を伝えて、19年の懲役に

## 迫害、投獄、拷問についての痛ましい体験談



孫兆海

孫兆海さん

2002年8月17日から18日にかけて、甘粛省蘭州市の勇敢な市民グループが国営テレビ局に対し電波ジャックを行い、中国共産党による学習者への残酷な迫害を暴露するビデオを流し、法輪功への憎悪を煽る政権の否定的なプロパガンダに対抗した。ビデオは30分間、四つのローカルチャンネルで放映された。

15人の学習者はすぐに逮捕され、最高20年の重い懲役を言い渡された。当時34歳の孫兆海さんは蘭州刑務所での19年の刑期を言い渡された。彼は独房に入れられ、重い鎖で縛られ、食事と睡眠を奪われ、残酷な強制灌食を受け、凍えるような寒さに晒され、「虎の椅子」や「死人ベッド」による拷問を受けた。さらに、

肋骨2カ所を骨折し、脳震盪を起こすほどの激しい暴行を受けた。

地獄のような拷問から生き延びた孫さんは、2021年8月21日に釈放された。彼は自らの経験を以下のように語った。

### 辛い幼少期を経て、希望を見出す

私は孫兆海と言います。4人兄弟の次男として育ち、同級生よりも大人びていました。小学校3年生から古典小説を読み始め、その中の正義のヒーローに魅了され、さらに中国の伝統文化や五常の徳である「仁・義・礼・智・信」、および「温和・節制・謙讓」などの美德も教わりました。

私が覚えている限り、家族はずっとアルコール依存症の父の恐怖の中で暮らしていました。12歳の時、些細なミスでも殴られるのではないかと恐れて、家を飛び出しました。母は殺虫剤を飲んで自殺しようとしたが、幸い命に別状はありませんでした。その後、父が母を殴ろうとする度に私は前に立ち塞がり、彼女を守りました。

中学校に入ると、私はかなり自立するようになり、いつも人間がどこから来たのか、なぜここにいるのかと疑問に思っていました。たくさんの書籍を読みましたが、答えが見つかりませんでした。

その後、砂糖工場で見つけ、仕事の合間に勉強もできて、高卒の

資格を取得しました。人生が好転し始めた矢先、私はⅢ型の肺結核と診断され、両側の肺に空洞ができて咯血し、ちょっと動くだけでも息切れがしました。2カ月間の入院で病状は治まりましたが、毎年再発を繰り返していました。

結婚後、私は警備部門に異動され、1997年3月に、ある女性の同僚から法輪功を紹介されました。彼女は大金をはたいて他の気功の流派を学んでいましたが、法輪功（無料で教えてくれる）こそが真の修煉法だと言いました。

同年4月、妻と書店で『轉法輪』を購入しました。家に帰るや否や本を読み始めた私は、涙が止まりませんでした。探していたものがようやく見つかり、10代の頃に抱いていた疑問がすべて『轉法輪』によって解けました。そして、人生の意味は返本帰真であることが分かりました。妻とグループ学法に参加した直後、私の結核は消え、再発しませんでした。2～3カ月後、座禅中にたくさんの法輪が自分の周りを回っている不思議な光景を見ました（注：「法輪」は大まかに「法の輪」と訳され、法輪大法の象徴でもあります）。

### 嵐の中で信念を貫く

新たな喜びに浸っていた矢先、周囲の環境が一変しました。1999年7月20日、政府が法輪功を取り締まろうとしていると聞き、われわれ十数

人は信仰を实践する権利を訴えるために北京に行くことを決めました。道中、一部の学習者は警官によって下車させられました。私たちは早めに降りて、バスで行くことにしました。私たちのバスは2つの検問所を通過し、2度とも武装警察による検査を受けました。

北京で他の学習者と会った後、北京でより効果的に陳情できるよう、一先ず地元の学習者と協調すべきだと考え、私は一旦ジャムス市に戻りました。妻は仕事を辞めてお金を借り、私と一緒に北京に向かいました。中秋節の日、私たちと数人の学習者が北京で借りた家に、武装警察が侵入してきました。十数人の学習者が逮捕され、尋問されました。私を含む多くの男性学習者が殴られました。妻ともう一人の学習者が妊娠していたため、故郷に連れ戻されました。

私ともう1人の学習者は、朝陽拘置所に拘禁されました。そこは生活環境が悪く、監房ではぎゅうぎゅう詰めのイワシのように横向きになって寝なければなりません。4日後、役人は私をジャムス市に連れ戻しに来ました。列車の中で私は27時間ほど手錠をかけられ、到着するとすぐに地元の派出所に連れて行か

れました。

10月1日、私はジャムス市の拘置所に連行されました。私たちの監房には、5～6人の学習者を含め15人がいました。食事は1日2食で、饅頭(トウモロコシの粉を水でこねて円錐形にし、蒸して食べる食品)と塩味のカブのスープだけでした。こんな粗末なものを食べられるようになるまで、しばらく時間がかかりました。妹はコネを使って警官を拘置所に連れてきました。その警官は私に、法輪功を放棄する「保証書」を書けば釈放されると言いましたが、私は自分の信念を裏切ることを拒みました。

## 2年間の強制労働

11月3日、私と他の16人の学習者は、佳木斯市の文化宮でいわゆる「公開裁判」にかけられ、「社会秩序を乱した」として、1年から3年の強制労働を科されることになり、私の場合は2年でした。

ジャムス市強制労働収容所での最初の食事は、真っ黒な小麦粉の饅頭と、洗っていない冷凍カボチャを大きく切った薄いスープでした。お椀がなく、数人がしゃがんで一つのたらいを囲んで食べなければなりません。そして、たらいの底には泥の層

がありました。

晩秋のある日、36人の学習者のうち3分の1が収容所から脱走したので、当局に衝撃が走りました。脱走した鶴北林業局の学習者・賈永発さんは当日の夜に再逮捕され、看守に数日間殴られ、拘留中も虐待され続けました。釈放後間もなく、彼はこの世を去りました。

冬になると、私は床に氷が張るような冷たくて湿った独房に閉じ込められ、2人の受刑者の監視下に置かれました。夜中にトイレに行きたい時、2人に声をかけてドアを開けてもらわなければなりません。そのような劣悪な環境の中で、私はうつ病にかかり、夜中に洗濯室に行き、冷水を体にかけて重苦しい気分を発散させることもよくありました。

1ヶ月後、ある優しい看守(妻が学習者)が、私の生活環境が非人道的だと言って、私を別の監房に移すことを提案しました。同情を示しただけで、彼は昇進の機会を失いました。

2001年10月3日、私はようやく釈放されました。

2002年4月20日、佳木斯市の学習者が地元テレビ局に対し電波ジャックを行い、法輪功に関するビデオを放送することに成功しました。当時、

左：蘭州刑務所、右：ジャムス強制労働収容所



私は関わっていなかったにもかかわらず、法輪功を放棄していないことから、当局に重要なターゲットとして見なされていることを知りました。その日、妻と私は結婚8周年を祝いながら、数日後に私の34歳の誕生日も一緒に祝おうと約束しましたが、叶うことができませんでした。逮捕されないように、私は故郷を離れることにしました。妻との再会は、それから20年近く経った頃であり、かつての仲睦まじい夫婦は他人になっていました。

後に聞いた話では、警察が全市の大規模な逮捕で私を見つけられなかったため、妻を2カ月間拘束したそうです。職場や家族による圧力に耐えられず、妻は法輪功を放棄し、私の知らないまま離婚手続きを行いました。

## 電波ジャック

山東省に逃げた後、故郷の数人の学習者に会いました。ホームレスになったとはいえ、中国共産党の嘘を暴くために何かをしなければならぬと、私たちは合意しました。先日のテレビ電波ジャックに感銘を受けた私たちは、同じことをしようと考えました。

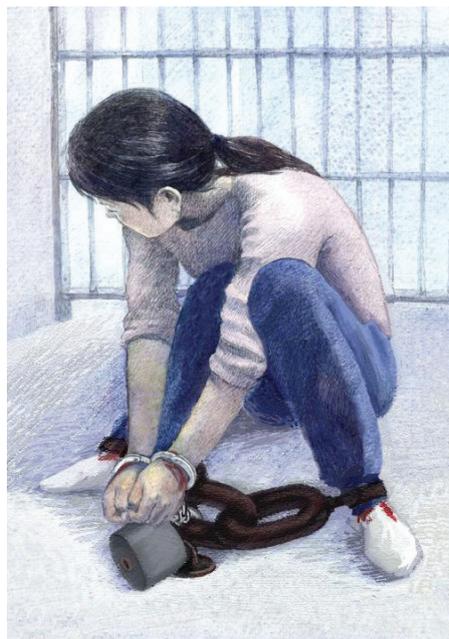
必要な技術的スキルを身につけた後、私ともう1人の学習者は、山東省から蘭州市まで20台以上のケーブルテレビ電波ジャック装置を持ち運びました。そこで数人の学習者に割り込みの方法を教えた後、8月17日の午後7時に私たちの映像を流すことに合意しました。その時間帯は外がまだ明るくて、道行人が多くいました。雨が降ればと願った直後、本当に雨が降ってきました。その日、私たちは全国のニュース番組と4つのローカルチャンネルで電波ジャックすることができました。

作業の後、私は蘭州市の学習者と別れて、山東省に戻る前に親戚を訪ねようと、バスに乗って宜興市に向か

いました。道中、西寧市の学習者に電話した際、慎重さの欠如で携帯電話が追跡され、江蘇省と無錫市の警察に身柄を拘束されました。後で知ったことですが、電波ジャックを知った上層部は、一刻も早く関係者を一網打尽にしようと対策本部を立ち上げ、私がその指名手配リストのトップにいました。

宜興拘置所では、私は縛られ、手錠をかけられました。ハンストで迫害に抗議しましたが、灌食されました。その後、一晚中地環（地面に固定されたリング）という刑具につけられ、横になること、立つこともできず、一秒一秒が苦痛でした。

翌日、私は警察のゲストハウスに連行されました。6人の警官があらゆる手法を駆使し、電波ジャックの参加者と機材の入手方法について聞き出そうとしました。何の情報も得られなかったため、ある警官は汚いモップで私の頭と顔を殴り、もう1人は私の鼓膜が破れるまで繰り返し激しく私に平手打ちしました。その後、私は木箱の上に何日も座らせられ、寝ることも許されず、耐え難い経験をしました。



拷問のイラスト：

地面のリングに手錠をかけられる

1ヵ月後、私は甘粛省の新調された蘭州第二拘置所に移送され、強制労働を拒否したため、看守に手を後ろ向きにして手錠をかけられました。彼らは手錠と足かせを鎖で繋ぎ、私が立ったり横になったり、座ったりもできないようにして、2週間放置しました。

## 不思議な力を目の当たりにする

拘置所で、蘭州では有名な詐欺師として知られる監房リーダーに会いました。彼は以前、他の学習者から法輪功について学んでいたため、修煉についてよく私に質問してきました。この男性は天目が開いていて、ある日、私の周りに強いエネルギーの場があるのを見えました。以前、私が法輪功の本を読むように勧めたとき、彼はいつも読むと言いつつ、決して読みませんでした。私の周りのエネルギーの場を見てから、彼は『轉法輪』を手に取り、熱心に読み始めました。第三講を読み終えた時、彼は長年患っていた慢性腸炎が治ったことに気づき、今まで避けていたものが食べられるようになりました。

2003年9月4日に私が蘭州刑務所に移送されたとき、彼は周囲に気を配るように言い、私が新しい環境で虐待されないようにしました。彼はほどなく釈放され、事業を始めたと聞きました。

## 蘭州刑務所での拷問

黄河の北に位置する蘭州刑務所には、4,000人以上の受刑者と1,000人以上の看守がいました。受刑者たちは宝石を磨く、サッカーボールを縫う、電球やランタンを作る、絨毯を織る、セーターを編む、鉄製のドアや窓を作るなど、あらゆる強制労働を強いられました。2001年から、甘粛省の男性学習者はみなここに収監される

ようになりました。

到着するや否や、私は監禁室に連れて行かれ、看守を喜ばせようとしていた数人の囚人に殴られました。彼らは私の頭を剃り、服を脱がせ、古い囚人服を無理やり着せました。

一列に並んだ30の監禁室は、意のままに人に手錠をかけ拷問できる囚人たちによって24時間見張られていました。各部屋には「死人ベッド」、金属製の椅子、防音壁がありました。足に重さ38キロの足枷をかけられた私は、トイレに行くにも助けが必要でした。

8日後、私は入監隊（入所したばかりの受刑者が労働のほか、整列の訓練と刑務所の規則教育を受ける過渡的なエリア）に移送されました。そこには、電波ジャックの罪で判決を受

けた6人を含め、十数人の学習者がいました。18年の不当な判決を受けた劉志榮さんは、私が着く前に天水刑務所に移送され、後に拷問を受けて亡くなりました。

入監隊の指導員・王長林は強制労働を拒否した学習者に対し、労働現場で彼らを手錠で空中に吊り上げました。私が目撃したのは、学習者の畢文明さん（迫害により死亡）と強小宜さんでした。ある警官が武威市出身の学習者を殴るのを見て、入監隊にいる学習者全員がハリストで抗議しました。その後、数人が生産エリアに移されました。

### 殴打され脳震盪を起こした

第4監獄区では、私は先に移送された白銀市で電波ジャックを行った

学習者・常具斌さん（元検事）と出会いました。常さんの電波ジャックを手伝ったもう1人の学習者、張廣利さんは第9監獄区に収容されていました。

白銀市での電波ジャックは大成功を収め、大きな反響を呼びました。番組を見た人たちは、迫害が終わったと思いましたが、常さんと張さんはそれぞれ懲役11年と12年の不当な判決を宣告されました。常さんは監獄区のリーダー・高振東から精神異常をきたすほどの拷問を受け、釈放された後も好転せず、しばしば家を離れて彷徨っていたそうです。

私は、監房リーダーの魏宏偉と3人の受刑者に監視されていました。最初は穏便に暮らしていましたが、2か月後、魏は嫌がらせをし始めました。ある日、彼は布団を私に被せて、思い



拷問のイラスト：「虎の椅子」に縛り付けられる

切り殴りました。私は鼻血が出て、軽い脳震盪を起こしました。他の3人の受刑者が担当の看守に暴行を報告しましたが、無視されました。

ある朝、起きる前に鼻血が出始めました。魏に殴られた後のうっ血だと分かり、トイレトペーパーで血を止めました。出血は10分ほど続き、トイレトペーパーの半ロールを使いました。その後、軽いふらつきを覚えました。

居続けると魏に殴られて死んでしまうのではと思った私は、別の監房に移ることを要求し、数日後、第2監獄区に移されました。その看守は態度が良く、蘭州の裏社会で有名な人物に私を監視するよう手配しました。彼の姓は管で、あらゆる面で面倒を見てくれました。逮捕されて家族と連絡が取れなくなり、生活必需品を買うお金もない私に、彼は日常生活において大いに助けてくれました。私も彼を兄のように思っていました。

## 「転向」キャンペーン

2004年と2005年、蘭州刑務所に収容された学習者の数は、ピーク時には120人を超えていました。

2005年11月、刑務所は学習者に対し、「転向」（信仰を放棄させる）という別のキャンペーンを開始しました。一部の学習者は独房に入れられ、眠ることを許されず、毎日蒸しパン1個とコップ1杯の水だけを与えられ、手錠や足かせをかけられたり、手首を宙に吊るされたりする人もいました。多くは死線を彷徨うほどまで拷問を受けていました。

各監区は看守2人、囚人4人で構成される「転向促進チーム」を作りました。彼らは各学習者を暗い部屋に連れて行き、洗脳しました。私は小さなプラスチックのスツールに座らせられて、9日間睡眠を禁じられました。気を失った私はプラスチックの椅子の背もたれに寄りかかって、4時間ほど

寝ることが許され、その後、また3日間寝かせてくれませんでした。自分がいつまで持ち堪えられるのか、そしてそれがいつ終わるのか分かりませんでした。一秒一秒が永遠のように感じました！

彼らは毎日17～18時間をかけて、法輪功を中傷する「天安門焼身自殺」などのデマのビデオを流し続けていました。自らを教養があり雄弁だと考えているある看守は、その後2週間にわたり10回以上私と議論しました。理屈に窮すると、彼は文脈を無視して『轉法輪』の一節を引用しました。そのごまかしを指摘すると、彼は「政府は法輪功を禁じているのだから、それを学んではいけない」と言い、議論を終わらせました。

## 新たな悲しみ

2007年1月4日、看守は私のために家族との通話を手配してくれました。それまで、私は5年近く家族と連絡を取れていませんでした。何か悪いことが起きたのではないかと、緊張と不安でいっぱいでした。妹と言葉を交わし、受話器を母の耳元に当ててもらった後、母の荒い息遣いだけが聞こえてきました。「お母さん！ お母さん！」と呼びかけましたが、応答がなく、私は気持ちが重くなりました。

後で聞いた話では、新年に母は私と元妻以外の子供たちを見た時に悲しくなり、動揺して脳卒中が再発し、危篤状態で入院したそうです。家族は私に連絡を取ろうと八方手を尽くしました。通話した日の夜、母は永眠しました。

迫害がなければ、母はまだ私のそばにいたろうと思いました。あと数回、彼女の髪や足を洗ってあげられたらどんなにいいだろうとも思いました。しかし、私には自由がありません。私が信仰を守り、法輪功の真実を人々に伝えようとしただけで、家族は壊されてしまったのです。

## 激しい拷問中の一息

2010年、刑務所は第二弾の「転向」を始めました。後で聞いた話では、省の労働改造関係者が「孫兆海の刑期はあと11年もある。彼をここで快適に過ごさせる訳にはいかないだろう」と言ったそうです。その後の2カ月間、私は1日2個の蒸しパンしか与えられず、睡眠も奪われ、常に飢えていて寒さに震えていました。

私を「転向」させることができないと判断したのか、2012年から刑務所の役人らは私への処遇を緩和しました。

ところが2016年末、刑務所長は王国臣を私たちの監区の区長に任命しました。王は第5監獄区を管轄していた時、受刑者を唆して学習者の王有江さんを拷問していました。その結果、王さんは半身不随になり、後に亡くなりました。王国臣が来てから半年後、私は狭くて暗い部屋に閉じ込められ、毎日12時間は「虎の椅子」に、残りの12時間は「死人ベッド」に縛られていました。

拷問に抗議してハンストをしたところ、5日後には強制灌食されるようになりました。彼らは私の鼻からチューブを挿入して抜き、再び押し込んでからまた抜くという動作を繰り返しました。私の胃には何もなく、非常に苦痛の伴う過程でした。息苦しくて、胃がムズムズしていました。彼らはわざと私を苦しめ、ハンストを断念させようとしていました。

3日後、彼らがまた強制灌食しようとした時、私は鼻血が出て、血を飲めと言われました。監区に戻る途中、私は2度失神し、意識が戻った後、10日以上も「死人ベッド」に縛り付けられていました。

## 看守に肋骨を折られた

王国臣の異動後、馬という新しい監区長が来ました。2019年末、ある



油絵：静けさ

指導員がトイレの使用を止めるために作業場の男子トイレに鍵をかけ、「そうだ、俺はフリーガンだ。だから何だ!」と、300人以上が無給労働を強いられている作業場で叫びました。私は「トイレに行くことは人間としての最も基本的なニーズの一つです。ひどすぎます」と言って抗議しました。

翌日、馬は私をオフィスに押し込み、テーブルの上に強く押し付けました。背中に激痛が走りました。彼が手を放すと、私は床に倒れ込み、隣の椅子を掴んで起き上がろうとしましたが、立ち上がれませんでした。力を取り戻してから、私は不快な言葉を彼に投げかけました。彼と6人の看守は私を殴ったり蹴ったりし始めました。その後、彼は2人の受刑者に私を作業場に連れて帰るように言い、両手を後ろ向きにして柱に手錠をかけま

した。殴られて肋骨が2本折れて、呼吸の度に激しい痛みを感じ、両脚も紫色になっていました。

それから1カ月間、私は激痛に耐えながら作業場での仕事をこなし、深呼吸ができず、ちょっとでも咳をすると激痛が走り、息苦しくなっていました。



拷問のイラスト：殴打

## 自由を取り戻す

釈放の1週間前、役人らは私に、「転向」を認めなければずっと刑務所に閉じ込めると脅しましたが、私はノーと返事しました。彼らはそれ以上何も言いませんでした。

21年間の不当な投獄の中で、私は信仰を放棄させることを目的としたあらゆる方法で殴られ、拷問されまし

た。蘭州刑務所での19年間は、言葉で表せないほど辛い経験でした。どんな言葉でも私の孤独を表現できず、誰もその重荷を分かち合えないでしょう。しかし、自分がしてきたことは正しいことで、それが法輪功に対する正しい信念であると、心の中で固く信じていました。

# 迫害に立ち向かう

## 国際サミットで信教の自由を訴える青年学習者



上: 2023年1月31日から2月1日までワシントンD.C.で開催された「国際宗教自由サミット (IRF)」に参加した青年学習者

2023年1月31日から2月1日までワシントンD.C.で開催された「国際宗教自由サミット (IRF)」に、法輪功を支持する学生の会 (SFFG) と法輪大法情報センター (FDIC) の青年学習者が参加した。

カリフォルニア州、ニューヨーク州、メリーランド州から参加した一行は、音楽、医療、技術、ソフトウェア開発、バイオテクノロジーの分野で活躍する学生や若い専門家で構成されている。2日間の会議中、彼らはSFFGとFDICを代表して、出席者と政府関係者に中国における法輪功迫害の実態を伝えた。

サミットの多くの発言者と人権専門家は、学習者の粘り強さと勇気に敬意を示し、中国共産党 (以下、中共) による法輪功への迫害を非難した。

### 学習者の両親が中国で迫害を受けた

中国生まれで、現在米国に留学中のグレース・陳さんはパネラーの一員として招待され、「中国における宗教的良心の囚人を解放するキャンペーン」をテーマとした討論会で発言した。

グレースさんの両親は法輪功を学んでいることで、現在も中国で拘禁されている。母親はグレースさんを幼稚園に送る途中で警官に連行され、数週間家に戻って来なかった。グレースさんはまた、中共が小学校の教科書にさえ法輪功を中傷する内容を書き、校長と教師に全校生徒の前で法輪功を誹謗中傷する台本付きのスピーチをさせられたことを語った。

2019年、グレースさんはニューヨークで音楽を学ぶために中国を離れることができた。2020年末、学習者を大規模に連行する行動で、彼女の両親は共に拘禁された。彼女は2年以上、彼らと連絡を取ることもできなかった。

討論会と質疑応答の最後に、会場から発表者の勇気に感謝する声が上がった。グレースさんのスピーチに感動し、涙を流した女性は、中共政権が17歳の少女にこれほど冷酷な仕打ちをするとは想像もできなかったと述べ、中共の犯罪を暴く中で最後まで強い信念を持ち続けるようにと、グレースさんを激励した。



左: 幼い頃のグレース・陳さんと、現在も中国で拘禁中の母親の曹志敏さん

下: グレースさんと家族について語り合ったUSCIRFの代表であるディラン・シェクスネイドレ氏 (左) とカート・ワースミューラー氏 (右)



## 人権擁護団体、法輪功を知る

サミット参加者の多くは、SFFGとFDICが共同で設けたブースに立ち寄り、法輪大法とは何か、中共がなぜ法輪大法を迫害するのか、どのように支援すればよいかを学んだ。元プロバスケットボール選手で、人権活動家のエネス・カンター・フリーダムさんは、法輪功のブースを見て立ち止まり、中国の人権侵害と臓器狩りの犯罪を非難した。

「法輪功の皆さんのために祈っています」とフリーダムさんは述べた。ブースにいた学習者は、彼に「真・善・忍」と書かれた小さな蓮の花のペンダントをプレゼントした。フリーダムさんは学習者に感謝し、迫害に対抗するための平和的な努力が成功することを願った。

若いビルマ人活動家が学習者のブースに立ち寄り、SFFGと彼らの活動に興味があると言った。彼女は、より多くの人々、特に若い世代に人権を支持するよう働きかけようとしていると述べた。彼女は、学生や若い専門家がこれらの取り組みに参加する動機付けの方法について、SFFGの代表者と話した。



上: ブースに立ち寄るエネス・カンター・フリーダムさん (左2)



若い学習者が法輪功について会議出席者に説明している



迫害死した母・季雲芝さんの写真を手にしてスピーチするサイモン・張さん

## 発言者とサミット運営委員会からの支持

別のパネラーであるサイモン・張さんは、母親(季雲芝さん)が法輪功を学んでいることを理由に2度も強制労働収容所に連行されたことを話した。彼女は2022年3月22日、巴林左旗拘留所で亡くなった。

「母の65年の人生の最後の23年間は、ずっと中共による監視、嫌がらせ、連行、拷問と虐待を受けていました……。母が行なってきたのは、法輪功の原則である真・善・忍を堅持することでした。中共政権からの肉体的、精神的な拷問に直面しても、母はこれらの原則を放棄することを拒否しました」と張さんは述べた。2022年の北京(冬季)オリンピック開幕の数日前の2022年2月1日、季さんは再び連行され、3月21日に残酷な拷問により死亡した。

サイモンさんの話を聞いた後、米国国際宗教自由委員会の前会長でIRFサミットの共同議長カトリーナ・ラントス・スウェット氏は、「何年も前から、私個人と私の家族、ラントス家族およびラントス財団法人は、学習者と付き合っています。我々は彼らの中に、尊厳と偉大な忍耐力、そして想像を絶する恐怖に直面した時の非凡な寛容力を感じました」と述べた。

サミット期間中の全体会議で、『Bitter Winter』誌の代表マルコ・レスピンティ氏は、ジャーナリストが最新あるいは最も注目されている人権被害団体だけでなく、法輪功を含む数千から数百万の被害者を持つあまり知られていない迫害された団体についても、調査・報道しなければならないと強調した。

# 世界各地からの声援

## 千人以上の政界要人が 法輪大法30周年を祝う

2022年5月13日は、法輪大法が広く伝わって30周年であり、第23回世界法輪大法デーでもある。米国、カナダ、ヨーロッパ、オーストラリア、台湾など千人以上の政界要人が、法輪大法とその創始者である李洪志先生に褒賞や祝辞を送り、法輪大法が学習者と社会の両方に良い影響を与えていることを称賛した。

また、カナダの23都市では、法輪大法に敬意を表し、市庁舎やランドマークとなる建物で旗揚げ式やカラーライトの点灯が行われた。オンタリオ州ブライトン市のブライアン・オストランド市長は、「この旗を掲げることを大変誇りに思います。真・善・忍は法輪大法の理念であり、ブライトン市民の願いでもあります」と述べた。

下：米国、カナダ、英国、ドイツ、スウェーデン、スイス、アイルランド、オーストラリア、日本、台湾の政府関係者を含む千人以上の政界要人が、法輪大法が広く伝わって30周年に際して、法輪大法とその創始者・李洪志先生に褒賞や祝辞を贈った（大紀元）



## 地域社会への貢献

多くの市や郡の当局者は、特にパンデミックの最中に、  
地域社会を支援する学習者の努力を賞賛した。

「どうぞ私と一緒に、法輪功学習者の奉仕と努力を称えましょう。彼らは健康増進とストレス解消に役立つ平和的な修煉と座禅を通して、自己改善の使命を完結させ、地域社会を支えることに貢献しています」

— ニューヨーク市第51選挙区選出  
市議会議員ジョセフ・C・ボレリ氏

「法輪大法学習者は、高齢者センター、企業のオフィス、ヘルスクラブ、公園、図書館、個人宅など、州内の多くの場所にこの修煉法を伝えています。健康で安らかな心身を持つという彼らの時代を超える価値観は、すべての年齢層の人々に力を与えています。あなたたちが私たちのコミュニティの一員であることを光栄に思っています」

— ニュージャージー州ニューアーク  
市長 ラス・J・バラカ氏

「法輪大法は1996年に初めてメリーランド州に伝わり、それ以来、多くの州民がこの平和で効果的な功法を学び、恩恵を受けています。また、公園内で煉功場を運営するボランティアや、ネット上で功法を教える無料教室もあります。法輪大法の学習者は、パレードや健康フェアなどの文化イベントにも参加し、地域社会に活力を与えています」

— メリーランド州フレデリック郡知事  
ジャン・H・ガードナー氏

## 人権と生命の尊厳を守る

一部の要人は、法輪大法学習者が中国での信仰への迫害に  
平和的に対抗する中で、いかにその理念を貫き通してきたかを強調した。

「主要な人権団体は、過去30年近く中国で起きた全国規模の法輪功学習者に対する憎悪、拷問、大量監禁や殺害などのキャンペーンを記録してきました。これらの言葉にできない残虐行為に直面しても、国内外の法輪大法グループは、不屈で非暴力で堅忍不拔の精神をもって、自由と普遍的価値を守ってきました。彼らの努力は、世界的に認められ敬愛されています」

— シルベスター・ターナー・ヒューストン市長

「中国共産党についてこれまでに出版された中で最も詳細な暴露本である『共産党についての九つの論評』を印刷し、身の危険を冒して中国全土で配布したのは法輪大法の学習者でした。こうして初めて、中国市民は中国共産党の欺瞞と犯罪の全歴史と共に、その本当の姿を知ることができました」

— ニューヨーク州上院議員アンドリュ  
ュー・J・ランザ氏

「中国共産党政権による最も厳しい迫害の中で、法輪大法学習者が示した広大な慈悲と寛容は、善念のあるすべての人々に感動を与えました」

— バーリントン市長のマリアンヌ・  
ミード・ワード氏



# 大法から希望を見出す

## スマホ依存症から抜け出す

### 中国の法輪大法学習者

私は若い法輪大法の学習者です。「真・善・忍」の理念は常に私の心を育み、行動を導き、私の欠点を正してきました。大法の教えから、私は人生の意味を理解し、自分よりも他人のニーズを常に考え、社会で積極的な役割を果たすべきだと気づかされました。

大法という羅針盤があって、私はいつも幸せで心が穏やかです。しかし、大人になるにつれて、必然的にテレビや携帯電話、インターネットに接する機会が多くなりました。それらは私に多くのネガティブな感情をもたらし、私を目に見えるこの現実世界に引きずり込みました。携帯電話で遊んでいるうち、大切な時間が大量に消費され、勉強や試験にも集中できなくなり、寝る時間も、親戚や友人と話す時間もなくなりました。

心の中に大法があっても、他人に優しく、寛容になることも難しくなりました。知らず知らずのうちに、頭の中に入ってきたネガティブなものに影響されて、他人とのちょっとした摩擦でも憤りを覚えるほどの闘争心が生まれました。また、名声や富を求めたり、苛立ちやすくなったり、報復を提唱したり、嫉妬したり、わがままを言ったり、自分や他人の容姿を気にしすぎたりするなど、多くの執着心を持つようになりました。

この状態が現れた当初、それがどれほど有害なものか分かりませ

んでしたが、いくつかのヒントは得ていました。トイレや汚水槽の夢を見たり、インターネット上のよくないコンテンツの背後にある幽霊、蛇、骸骨などの恐ろしいものを見たりしました。他の学習者も体験談の中で、似たような場面を見たと言っていました。何度もスマホを手放そうと試みましたが、スマホなしではいられない自分があると気づきました。少し改善しても、すぐに引きずられてしまうのです。

ここ数年、両親が仕事に行っている間、家で勉強していた私は、スマホで遊ぶ時間がたっぷりあって、その欲求もますます強くなりました。朝9時に起きて夕食までスマホをいじり、夕食後は勉強を口実に携帯やパソコンで遊び続け、夜中になってやっとベッドに入りました。

「時には極度の疲労を感じても、指は制御できないかのように画面を前後にスワイプしていて、人生を無駄にしています」

偽物の「自分」が本物の自分を支配していると強く感じました。スマホで遊ぶ度に、食べ物や栄養を与えられているのは偽の「自分」とそれらの執着であり、本当の私ではありませんでした。本当の自分は無知の闇の中で苦しみ、それらの墮落した生き物に囲まれ、自分

法輪大法の創始者である李先生は、このように仰っています。

「人間には中毒という言葉がありますが、中毒とは何かを教えます。医学的に、快楽を司る神経が刺激され、発達すると依存症になると言われていますが、そうではありません。どういうことでしょうか？ 時間が経つにつれ、あなたの体にあなたの姿形と全く同じもう一人のあなたが出来上がります。このもう一人のあなたは執着によって構成され、あなたを制御しています。とても強い執着があなたの姿形を形成したため、あなたの心を制御してしまうほど強い力を持っています。とても強い心によって形成されたからです」

「パソコンやゲームに依存する場合も同じ作用が働いています。同じ仕組みです。やめてしまえば、この私を死なせる気かと承知せず、どうしても画面を見るようにあなたをコントロールするのです。見ないのですか？ 仕事に対しても勉強に対してもやる気がなく、頭はパソコンやゲームのことでいっぱい、夢にまで出てくるようにするのです」



事中にスマホを使う必要があるとき、それを取り出して使い、終わったらしまっておくだけです。そして、スマホから全ての娯楽アプリをアンインストールしました。仕事をしていないときは大法の本を手に取り、敬意を持って読みます。大法から新しい法理が読み取れたとき、長い間失われていた喜びを実感することもよくありました。ようやく正しい道に戻ってきた気がしました。

人は携帯電話で遊ぶとき、短期間の快樂を得ることができるかもしれませんが、しかし、その快樂は真の自分の内からくるもので

の修煉や人生が現実世界によって台無しにされていることに絶望しつつ、助けを渴望していました。

## 高次元の力を求める

母は私の芳しくない状態を見て、私が依存症を克服できるように、長い時間をかけて私と会話しました。「はい」と一応答えるものの、そうする自制心が自分がないことを知っていました。すると母は、街のどこかに掲げられている李先生と大法を中傷する横断幕について触れ、その背後にある別の空間の邪悪な要素を取り除くための正念を発してほしいと頼みました。

「私は幼い頃から法輪大法に祝福され、師父に見守られ保護されてきた。師父と大法が誹謗中傷されているとき、私が行動を起こす気がなければ、修煉者としては恥ずべきことだ」と思った私は、「今すぐ発正念します!」と母に言いました。

その正しい一念のためか、師父は長年私を悩ませていたスマホで遊ぶ

執着を取り除いて下さいました。掌を立てて発正念をし始めた途端、心臓にエネルギーが押し寄せてくるのを感じ、邪悪をやっつける勇気と自信を得ました。心の中で、私は全てのよくないものを取り除くようにと、師父に懇願しました。何かが私から切り離されたような気がしました。師父に助けを求めながら私は正念を発し続けて、掌が震えて、顔もいつの間にか涙で覆われていました。

私はあまり敏感ではなく、超常的な現象を経験したこともありませんでした。しかし今回、悪いものが取り除かれていく過程を本当に実感しました。否定的な考えが多く、スマホで遊ぶことに強い執着を持つ私が、電話に触りたくもなく、純粋な心を持つ人になりました。その全過程は10分もかかりませんでした。

## シンプルで純潔な生活

今の私は早寝早起きし、仕事や勉強に真面目に取り組んでいます。仕

はありません。それに嵌れば嵌れるほど、まるで憑依されたように、自分の言葉や言動も自分のものではなくなってしまう。そして次第に、私たちは無関心になり、利己的で怒りっぽくなります。正しい使い方をすれば、携帯電話やインターネットは私たちの効率性やコミュニケーションを向上させることができます。しかし、それには墮落や耽溺をもたらす、世の中を悪い方向へ導いてしまう側面もあります。本当はそうならないと思いません。

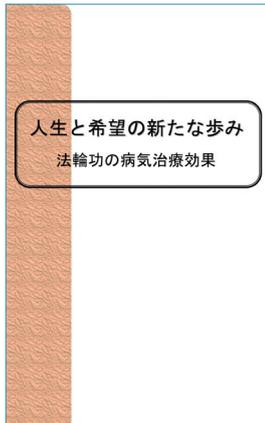
これらのものに支配されたくないのに、なかなか抜け出せない人には、「法輪大法は素晴らしい! 真・善・忍は素晴らしい!」と心から唱えることをお勧めします。私と同じく、高次元生命の助けを得て悪い物質を取り除き、より充実した人生を手にし、真に合理的で知的な人になるでしょう。





# 明慧書籍

MHpublishing.org



## 人生と希望の新たな歩み -法輪功の病気治療効果-

法輪功を学び深刻な病気が回復し、新しい人生を歩み始めた人々の体験談



## 修煉で現れた奇跡 (子ども弟子篇)

子どもたちは生まれながらにして聡明です。16人の子ども弟子の修煉の物語



## 精神と道徳の向上 -法輪功の道徳向上効果-

世界中の何千万という人々が、精神も身体も回復し、新たな人生を獲得した体験談



## 明慧インターナショナル (30周年記念 特別号)

法輪功が世界に伝え出されて30周年を記念した特別号



## 『明慧二十周年報告書:中国で起きている20年間にもおよぶ法輪功への迫害』

「本書は...オーストラリアのすべての図書館と議会事務所に置かれるべき」

-ピーター・ウェストモア、ニュース・ウィークリー誌

中国の法輪功学習者が受けた残虐行為。そして中国共産党が、経済的圧力や世界中の政治家、一般市民、ビジネスリーダーへの脅迫を通じて、世界的に展開している弾圧政策。その両方を、他では見られない生の証言に基づいて網羅した画期的な著作。



Buy Online



祝賀

◆  
真善忍



私たちは真・善・忍を目指しています

法輪大法を学ぶには

MINGHUI 明慧  
INTERNATIONAL



**FalunDafa.org**

各地の気功教室の情報



**learnfalungong.jp**

オンラインの無料レッスン



**Hakudai.jp**

法輪功の書籍、CD、DVDなど  
東京池袋の書店でも購入可

迫害を終わらせるために、  
あなたの力をお貸し下さい

ご家族や友人、同僚に、心身を健康にする気功  
「法輪功」が中国で迫害されている事実をぜひ  
伝えてください。より多くの人に写真や記事、ま  
たは統計をシェアして知らせましょう。

最新のニュース、中国での迫害に関する情報、  
法輪功学習者の体験談などをお届けします。